

郷土の偉人を紹介するために、平成26年阿南市文化協会から「阿南市の先覚者たち第1・2集」が刊行されました。
阿南市の発展に尽力された人たちの偉業を顕彰し、後世に語り継ぐために、27人の先覚者たちを奇数月に掲載して紹介します。

初代阿南市長

澤田 紋

澤田 紋は、明治45年（1912）4月14日、那賀郡富岡町（現阿南市日開野町）に生まれる。紋の父は役所勤めをしていたので、農作業は日曜日か祝日を充てていた。友達と一緒に鮎釣りをしている紋に、父が「芋づるを運んでくれ」と言うと、「はい」と答えて芋づるを両手にさげて畑にいる父に渡すような素直な子どもだった。



澤田 紋

澤田家の周辺には小川が流れており、子どもたちの遊び場だった。やかましく子どもたちが遊んでいても、紋の母は少しも怒らず、「落ちないでね」と笑顔で優しく言うだけであり、子どもたちから慕われていた。勤勉な父と優しい母に育てられ、多くの友達と仲良く遊んだ少年時代が、紋のその後の人生の大きな糧となった。

富岡小学校、富岡中学校（現徳島県立富岡西高等学校）を経て昭和8年（1933）4月、早稲田大学法学部に入學するも、昭和10年（1935）3月、父が急逝する。そのため早稲田大学を2学年で中退した。不平の一つも言わず、家庭や家族を思つての潔い退学であった。

父亡きあと、家庭を守るため帰郷し、親族から地主としての経営などを教わる。紋は常に相手の立場と生活を心配し、小作人に接していた。そんな紋の勤勉と実直さが買われて、昭和16年（1941）富岡町の収入役に迎えられる。終戦を挟み、昭和22年（1947）まで勤めた。

終戦後、はじめて地方自治が制度的に保障された。市町村の首長は住民の直接投票による公選とな

った。昭和22年（1947）4月5日、初の町村長の公選が行われ、澤田 紋は富岡町長に無投票当選を果たした。

広域行政組織の必要性が高まるなか、徳島県南部の広域都市・新産業都市としての発展を期待され、新市・阿南市が昭和33年（1958）5月1日に誕生する。第1回の市長選において、紋は初代市長に当選した。

市の発展には、工業の発展、それを動かす人材の育成が肝要であると澤田市長は考えた。那賀川水系の豊富な水などに着目し、市民の協力のもと、多くの企業を精力的に誘致した。また、人材の育成においては、宝田町に徳島県立阿南工業高等学校、見能林町に国立阿南工業高等専門学校を誘致した。また昭和38年（1963）に阿南商工会議所が設立され、翌年には桑野町に徳島県立阿南職業訓練所（現徳島県南部テクノスクール）が設立された。

企業誘致、人材育成に力を注ぐのと同時に、澤田市長は桑野川改修工事に着手する。無堤防地域の市民の命を守ることは、市発展に必要な工場誘致に役立ち、ひいては若者の働く場が確保できると信

じ、地元の人々の要望に一生懸命耳を傾けた。その結果、工事に反対していた人々の心をも打ち、事が動き出すに至る。この交渉は今も語り草として残っている。
実直な政治姿勢と人柄の良さにより、多くの事業を成した澤田市長は、昭和61年（1986）7月24日、74歳で逝去した。その日は、阿南の夏祭りであった。打ち上げ花火の音が響く中、紋は家族に看取られながら、波乱に満ちた生涯を閉じた。



桑野川改修工事での現地視察

次回11月号は、日亜化学工業の礎を築いた創業者 小川信雄氏です。
問い合わせ
文化振興課 ☎ 22-1798